

「世界に広めたい。ふるさとのお米」

栃木市立静和小学校 五年 尾林 美由

「本県コメ 大じょう祭に」

そんな見出しが地元の新聞の一面をかざったのは、五月のある日のことでした。私はそれを見た時、何のことだかよく分かりませんでした。それからテレビのニュースを見たり、家族に聞いたりして、ようやく理解できました。新しくそく位された天のうへい下のお祝いの席で使われる米に、栃木県のお米が選ば

れたのだそうです。私はおどろくと同時に、何だかほこらしくて、うれしい気持ちになりました。地元にはコシヒカリだけでなく、あさひの夢やとちぎの星など、おいしいお米がたくさんあります。十一月に行われる大じょう祭では、どこの名がらのお米が使われるのか、今からとても楽しみです。これを機に、世界の人にふるさとのお米を知ってほしいと思います。

私の通う小学校では、三年生でお米を育て

る授業があります。田んぼの先生に教わりながら、二年前に初めて田植えやいぬかりの体験をしました。生まれ初めて初めて入った田んぼはぬかるんでいて、転ばないように歩くだけで精一ぱいでした。みんなで一列にならなくてきれいに植えたつモリの苗も、後から見るとまだらでうねっていました。こしもいたくない、私はお米を育てる大変さを実感しました。そして今年の春、五年生になった私達は、**幸運**にも二度目の田植えをさせてもらいました。

た。前回とはちがいで、今回はみんな慣れた様子で、作業も手早く進みました。ぬかるみに足を取られることもなく、歩くことができました。みんなで植えた苗の列はきれいにそろっていて、田んぼがキラキラかがやいて見えました。秋のいぬかりまで、成長を見守る楽しみができました。

「米」という文字を分解すると「八十ハ」となります。これは「お米が実るまでに八十回も手をかけるから」だそうです。昔とは

違つて機械化が進んだ今でも、おいしいお米を作るには大変な苦勞があります。天候に左右されたり、暑い中の農作業は本当に重労働だと思ひます。そんな農家の方の苦勞や努力のおかげで、私達は毎日おいしいご飯を食べることができるとです。お米があるのが当たり前前と思わず、日々感しゃの気持ちをごめていただきます。

と手を合わせたいと思ひます。

夏休み前にたん任の先生が、イネの花の話

をしてくれました。一年に一日だけ、お盆の暑いところに花を咲かせるのだそうです。本で調べてみると、とても小さな白くてかわいらしい花でした。見られたら幸せになれそうです。私は絶対に、実物のイネの花を自分の目で見たいと思ひ、田んぼに通ひ始めました。田植え直後はか細かった苗も、今では見違へるほど大きく生長しました。開花予想のお盆ももう間もなくです。白い花への期待をむねに私は今日も田んぼへ向かひます。